



Title	堂友會記事
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懷德. 1940, 18, p. 60-62
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/89060">https://hdl.handle.net/11094/89060</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 堂友會記事

六〇

▲十一月五日

會員十數名が京都の一心院にて狩野直喜先生の喪服に關する御講話を拜聽する。

幹事　酒井全太郎

▲十二月十四日

午後二時より恒祭を舉行せられ、會員一同祭典に奉仕する。鈴木虎雄先生が朱子の白鹿洞書院に就てと題し、一時間半に亘り唐以來の支那教育史を講演せらる。

▲十月二十九日

澤瀉久孝先生の御指導にて大和の川原寺、橘寺、石舞臺、岡寺、酒船石、鎌足公誕生屋敷跡、飛鳥宮跡、雷岡、尼寺跡、藤原宮跡等、萬葉集遺蹟を探訪する。會員三十八名參加する。

▲一月二十八日

四天王寺西門に集合し、南門附近にて五重塔と南門とに就て天沼俊一先生の御講話を拜聽し建築中の五重塔内部を參觀する。赤く青く繪師が彩つてゐるのを見てみると此の世のものとも思へぬ美しさにうたれる。寒風はげし

く吹きつのる中を東門附近にて東門に就て御

講話を拜聽し、本坊にて晝餐を喫す。午後、勝鬱院多寶塔及び其の内陣、木津願泉寺の書院を拜觀し夫々御講話を拜聽する。會員百一名參加し盛會であつた。

▲三月二十日

懷德堂常務理事今井貫一先生の御葬儀を岡本の御宅にて執行せられ、生前をしのぶ會員が多數會葬する。御庭の紅梅が淋しげに咲いてゐた。

▲三月二十四日

午前中、京都の恩賜博物館を參觀し午後、引續き二條城の櫻門、殿舎、庭園、本丸御殿を拜觀し夫々源豊宗先生の御講話を拜聽する。

會員六十七名參加する。

▲四月七日

天沼俊一先生の特別の御はからひにて四天王寺五重塔の拜觀を許される。塔の頂に上つてみると二上山が脚下に小さく見え春陽に映じて相輪が燦然と輝いてゐた。初重内陣に入りて彩色の功全く成れる綺麗な數多の佛像を拜觀する。午後、尼ヶ崎本興寺の國寶建造物を拜觀し天沼俊一先生の御講話を拜聽する。

▲四月十三日

吉田銳雄先生の御令聞が昨夜逝去せられたと聞き野口幸雄、太田勘兵衛兩幹事を初め會員が多數弔問申上る。

▲四月二十一日

澤瀉久孝先生の御指導にて奈良郊外の興福院及び萬葉植物園を見學し御講話を拜聽する。

## ▲五月二十六日

大津の圓城寺圓滿院にて應舉と祐常とに就て  
源豐宗先生の御講演を拜聽し午後、同院並び

に勸學院の襖畫及び石山寺の佛像等を拜觀し

夫々御講話を拜聽する。會員三十名參加す  
る。

## ▲六月十六日

紀勢線下津驛にて下車し待つてゐた船にて辨  
天島へ渡る。風光絶佳である。對岸である大  
崎を中心とした紀伊の歌枕に就て澤瀉久孝先  
生の御講演を拜聽し午後、下津へ歸りて解散  
する。解散後、雨中を紀三井寺へ參詣する會  
員もあつた。

## ▲六月二十六日

旅行中不慮の災禍にて逝去せられた藤塚誠二

君嚴父の告別式を島の内端の坊にて舉行せら  
れ折柄風雨激しかりしが會員が多數會葬し  
た。

## ▲六月二十七日

午後七時三十分より小講堂にて茶話會を開  
く。入江來布先生より奥の細道を中心とした  
俳聖芭蕉翁の御講話を拜聽し、吉田銳雄先生  
より提案せられた懷德堂先賢遺蹟の調査に就  
て甘酒を酌みつゝ相談する。出席者三十五名  
であつた。

